KASIKORNTHAI ECON ANALYSIS

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย
开泰研究中心 KASIKORN RESEARCH CENTER

2025 年 ~~2~~4 月号

タイの銀行貸出金利は徐々に下がっているが、債務者にとっての影響については明確な見通しが未だ無い状況

CURRENT ISSUE

Kangana Chockpisansin
Head - Research
kangana.c@kasikornresearch.com

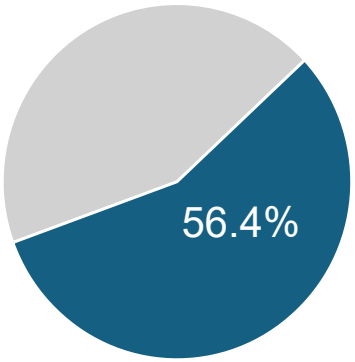
- 2025 年 2 月 26 日、タイの金融政策委員会（MPC）が政策金利を 0.25%引き下げて 2.00%とした直後、金融政策の市場への伝達メカニズムに沿って、金融・債券市場の金利も直ちに低下した。1 年未満の短期金融市場金利は 0.24～0.25%低下し、期間 1 ヶ月～1 年のタイ国債利回りは 0.08～0.10%低下した（2025 年 3 月 3 日現在）。

- 今回の MPC 会合後の注目点は、MPC 決定後翌日までに発表される商業銀行の貸出金利の引き下げである。D-SIBs と称されるタイ大手商業銀行 5 行は、2025 年 3 月初めから MLR（最低貸出金利）、MRR（最低小売金利）、MOR（最低当座貸越金利）を 0.10～0.25%ずつ段階的に引き下げている。一方で預金金利については、2025 年 3 月 4 日現在、普通預金金利、および個人預金口座の 3 ヶ月、6 ヶ月、12 ヶ月、24 ヶ月定期預金金利に変更はない。

- カシコン・リサーチセンターは、今回の金利引き下げは新規のローン契約に影響を及ぼすと予想しており、更に現在のポートフォリオの借入金利が最新の基準金利に基づいた再設定期間に入った場合、債務者にとって金利負担の軽減に役立つ可能性がある。カシコン・リサーチセンターは、今年半ばまでに金利引き下げの恩恵を受けると予想される

リテールおよび法人向けローンが、タイの銀行システムにおけるローン総額の 56.4%を占めると推定している（図1）。貸出金利の引き下げにより、リテール及び法人のローン債務者にとっての金利負担は7,300～7,500百万バーツ減少する可能性があり、2025 年のタイ銀行システム全体の純利息収益の 1.0～1.2%に相当すると予測される（2025 年 3 月から 12 月までの金利負担減少の影響予測に基づく）。

図１： 今年半ばまでに金利引き下げの恩恵を受けると予想されるリテール及び法人向けローンの割合



2025 年半ばまでに金利引き下げが実施される可能性のあるリテール・法人ローンの割合

Source: Bank of Thailand (BOT), forecast by KResearch

- しかし、貸出金全体へのこうした影響は限定的にとどまる可能性があると見られている。カシコン・リサーチセンターは、2025 年のタイ銀行システムの貸出金伸び率予測を0.6%に据え置き、2024 年の 0.4%の縮小に比べ若干の回復を見込んでいる。融資見通しにとって金利は重要だが、その他の要因も考慮しなければならず、特に経済活動の回復傾向や時期は、融資実行や債務者のリスク、信用力、返済能力の評価に影響する。したがって、今年中に注目すべき重要な要因は、1）国内金利がさらに低下するかどうか、そして 2）貸出金と経済全体の成長モメンタム、の 2 点と思われる。

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。